

「アトピー犬」急増

犬にアレルギー疾患の一種、アトピー性皮膚炎が広がっている。動物病院でも、かゆみを訴える「犬患者」が後を絶たず、アトピー用のドッグフードが大幅に売り上げを伸ばしている。二、三歳ごろから発病するケースが多いが、獣医の間でも研究が進んでおらず、治療は薬でかゆみを抑える程度という。食べ物や

食物や住宅の変化が原因か

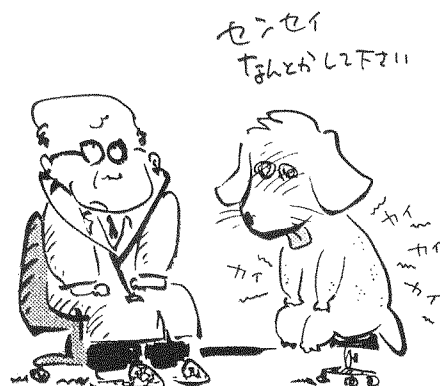
住環境の変化が原因のひとつとみられ、ペットブームのおおりで、愛犬たちがヒトの世界の病気にまで背負い込んだ格好だ。

は、人間と同様、ハウスダスト（家のほこり）のほか、食物が考えられるが、犬の食べ物には三百種類もあり、複合汚染もあって特定は難しい。

小動物皮膚科研究会（事務局・東京）の米倉督雄副会長によると、犬のアトピーは五、六年前から出始め、最近急激に増えた、という。アレルゲン（アレルギーの原因物質）として

東京都豊島区の久山登美雄・前日本小動物獣医師会会長によると、最近、同

医師が診察する皮膚病犬の七割がアトピーという。炎症で全身がピンク色になり、目の周りや指の間に赤い湿しんができるなどの症状がほとんど。「後足などでかきむしり、他の病気に



デザイン部・石井 章

専用ドッグフード、売れてます

と話す。都会と地方の間にアトピー発生の差はない様子で、各地の獣医と情報交換を進めている兵庫県高砂市の獣医国司広人さん（三三）は「一日に約五十匹診察するが、二割がアトピー」と話している。

「体質改善が大切」と、アトピー用のドッグフードの売れ行きは好調。日本ヒルズ・コルゲート社では、アメリカ製の低アレルギー用フードの今年の売り上げが前年に比べ五割の伸びと

いう。野菜を混ぜ、「アトピーに効く」と宣伝する国内製フードも出回り始めた。

専門家の意見は「室内犬が増え、家のほこりが原因になっている」「いや、人間と同じ食べ物を食べるようになったから」などまちまち。米倉副会長は「アトピーの存在を知らない獣医もまだ多く、詳しい獣医を見つけるのが一番の薬」といっている。

Asahi Simbun

a few days before

I forgot the date